



NIPPON FINE CHEMICAL CO., LTD.

日本精化株式会社

2-4-9, Bingomachi, Chuo-ku, Osaka, 541-0051, Japan
Phone: +81-6-6231-4781 Fax: +81-6-6231-4787

2026年6月1日

日本精化株式会社

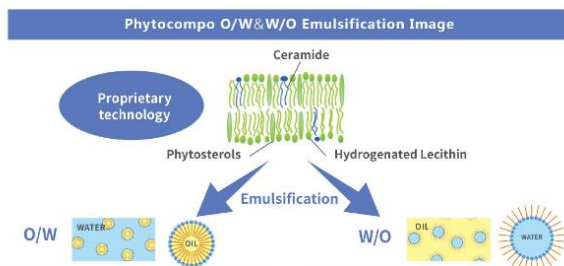
ビューティケア営業部

Suppliers' Day 2026（米国）で、完全植物由来の次世代乳化剤を紹介

日本精化株式会社（本社：大阪府中央区、代表取締役執行役員社長：矢野 浩史）は、2026年5月19日～5月20日に米国・ニューヨークで開催される Suppliers' Day に出展し、CEW Award に「Phytocompo™-PP」をエントリーします。Phytocompo™-PP は、天然保湿成分のみで構成された完全植物由来の次世代乳化剤で、O/W・W/O の双方に1品で対応し、クリーンビューティーと官能価値を両立する新しい乳化プラットフォームです。

➤ Phytocompo™-PP 概要

Phytocompo™-PP は、独自技術により水添レシチンとフィトステロールを複合化させた乳化剤です。O/W では多様な油剤を均一かつ安定に乳化し、シリコンフリーでなじみがよく心地のよいテクスチャーを実現します。レシチン特有の乳化時の着色・臭気を抑えながら、べたつきの少ない快適な塗布感と高い安定性を両立できます。なお難溶性成分であるセラミドを複合化した Phytocompo-C も販売しています。



➤ なぜ次世代乳化剤なのか？

Phytocompo™-PP は、1 原料で O/W と W/O の両設計を高い安定性と官能で実現するだけでなく、肌を“守る力”や“保湿力”にも寄与します。in vitro 評価では、ヒト表皮角化細胞（NHEKs）に

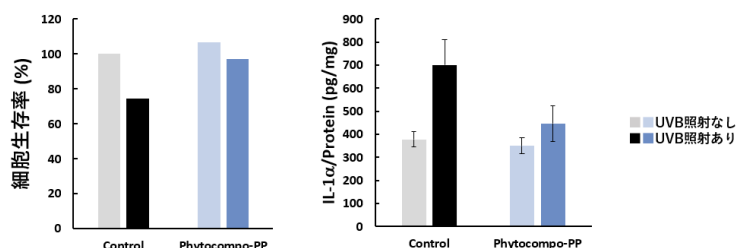
Phytocompo™-PP 分散液を添加し、UVB 照射下で培養したところ、コントロール対比で細胞生存率の維持が確認され、炎症性サイトカインである IL-1 α 産生の低下が見られました。

加えて、塗布評価では一般的なノニオン活性剤で乳化したクリームに比べ、

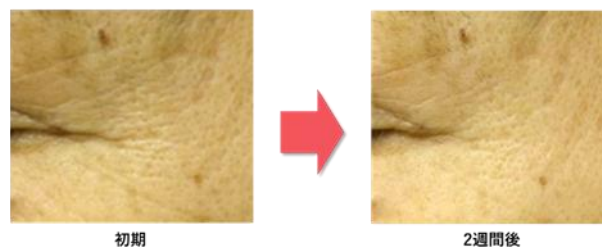
Phytocompo™-PP で乳化したクリームは 2~4 週間の連用試験で角層水分量が上昇し、TEWL（経表皮水分蒸散量）が低下、すなわちバリア機能の向上が確認されました。さらに、セラミドをあらかじめ複合化した Phytocompo™-C で乳化したクリー

ムは、セラミド+ノニオン界面活性剤を個別配合したクリームよりも、バリア機能の向上が見られました。こうした水分保持とバリア機能の向上により、Phytocompo™-PP で乳化したクリームは乾燥による小じわの目立ちを抑える傾向が 2 週間後の観察で確認されています。

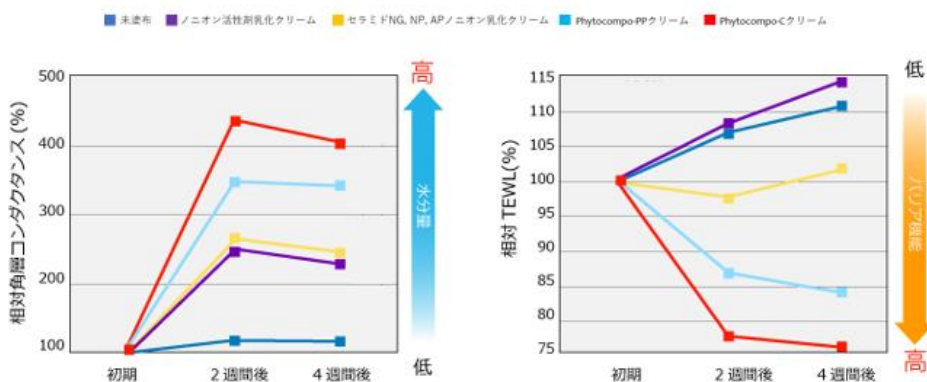
Phytocompo-PPの抗炎症作用



Phytocompoで乳化したクリーム塗布による小じわ改善効果



保湿性・バリア機能



レシチン由来ながら着色・臭気を抑え、O/W では幅広い油剤に対応、W/O ではシリコーンフリーでものびが良く心地よいテクスチャーを付与する処方者視点の価値に、in vitro および連用試験で得られた保湿・バリア関連データを加え、完全植物由来・天然保湿成分のみというクリーンな設計で同時に提供できること——これが、当社が

Phytocompo™-PP を「次世代の乳化プラットフォーム」と位置づける理由です。

(注) 本稿の試験は社内評価に基づくもので、最終製品の効能効果を保証するものではありません

▶ Suppliers' Day／CEW Award とは

Suppliers' Day は米国で開催される化粧品原料・処方技術の国際展示会です。CEW Award は美容産業のイノベーションを評価するアワードで、会期中に注目製品が選出・紹介されます。日本精化は本アワードに、植物由来・多機能・高官能を兼ね備えた Phytocompo™-PP をエントリーしました。

日本精化株式会社 ビューティケア分野

- ウェブサイト：<https://www.nipponseika-cosme.com/>
- Instagram：https://www.instagram.com/nippon_fine_chemical_official/
- 日本精化株式会社のプレスリリース一覧：https://prtimes.jp/main/html/searchrlp/company_id/1G3577

※Phytocompo は、日本精化(株)の「登録商標」です。